令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成　Newsletter

第5号

■ 発行　埼玉医科大学／群馬大学　Saitama Medical University ／ GUNMA UNIVERSITY

令和５年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウムを開催しました

埼玉医科大学　医学教育センター　准教授　井上　直子

■ 令和５年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム

1　はじめて学ぶ地域医療　両大学学生の合同授業
群馬大学大学院医学系研究科教授　小和瀬桂子
埼玉医科大学医学部医学教育学教授　柴﨑智美

2　感染症総合診療内科演習
埼玉医科大学病院臨床検査医学教授　前田卓哉

3　教育プログラムの成果と現状「利根川プログラム」
埼玉医科大学医学部総合診療内科学教授　林健
群馬大学医学部附属病院
地域医療研究・教育センター講師　羽鳥麗子

これらの盛沢山の内容において、１の「はじめて学ぶ地域医療」では、群馬大学・埼玉医科大学の１年生の学生が登壇され、学習内容について紹介しました。

令和６年２月２９日（木）レイボックホール（市民会館おおみや）において、令和５年度　埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウムを開催しました。（ウェビナー使用　ハイブリット方式開催）**テーマは、総合的に患者・生活者をみる～地域・人生・プライマリーケア～です。**会場には、群馬大学・埼玉医科大学の関係者をはじめとして、両大学で学ぶ医学生はもちろんのこと保護者の方、地域の医療関係者、そして、来年度の入学予定者の高校生も参加されていました。開会は、埼玉医科大学　竹内　勤学長の挨拶から始まりました。第一部は、特別講演として　筑波大学地域医療教育学　教授　前野哲博先生より「地域医療で活躍する総合診療医の育成」をご講演いただきました。地域医療を目指している学生にもわかりやすいご講演で、地域医療に対する希望や夢を感じるご講演に、会場はメモを取る学生が多くみられました。第二部は、未来医療人の育成プログラムの紹介で、下記のそれぞれのプログラムの令和５年度の活動内容が紹介されました。

群馬大学の多賀谷滉世さんより　群馬県高崎市の地域診断の内容を具体的に紹介されました。

また、埼玉医科大学の富岡美羽さん、諫山あおいさんも登壇され、小和瀬先生、柴﨑先生も加わり５人により、地域医療について初めて学んだことの成果が発表されました。

特に、両大学の合同授業のメリットは、専攻する学部（領域）が相違していることにより、多様な視点があることを学べたことは大きな意義があったと発言がありました。

閉会の挨拶は、群馬大学の石崎泰樹学長より、来年度の群馬県での再会を願って盛会のうちに終了しました。

ご参加いただいた皆様をはじめ、関係各位にお礼申し上げます。来年度もこのプログラムを粛々と進めて参りますので、関係各位のご協力を改めてお願い申し上げます。

本プロジェクトで大切にしていること　vol.5

埼玉医科大学副学長・医学研究科長　髙橋　健夫

■埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成プロジェクトとは

埼玉県は人口当たりの医師数が全国で最も低く、特に県北部でその傾向は顕著です。埼玉県北部は群馬県と利根川を境として隣接しており、両県境は様々な生活圏や医療圏を共にしてきました。本プロジェクトはそのような背景から生まれています。

実は群馬県南部から埼玉県北部一帯には大古墳群が存在し、古には東国の一大勢力を形成していました。近世には明治４年に武蔵国北部から上野国の全域を管轄する熊谷県が設置されており、両県境は歴史的に大変密接な関係があります。これらの地域には豊かな自然があり、県境の文化や人の温かみに触れられる地域です。

今まで活用が不十分であったリソースを利用して、両大学が手を携え、両県・両県医師会・地域医療機関と緊密に連携し、学生には地域医療体験のみならず、地域についても学ぶ機会を提供します。地域医療を医療の視点からだけでなく、「はじめて学ぶ地域医療」など地域そのものから学ぶコースが設けられているのも特色だと思います。

両大学の学生が医療機関での実習や講義の場に於いて密に交流し、グループワークや発表会を通じて意見を交わすことにより、この地域への理解と愛着を深めて、地域について具体性を持って学ぶ姿勢を身に着けることは極めて重要です。

「利根川プログラム」等では両大学で利根川を挟む協力医療機関への臨床体験実習ツアーや、映像コンテンツを用いた合同演習なども行います。座学と地域実習との双方向性の学習により、学生に地域性が育まれることを期待します。

本プロジェクトを通じて、この地域への理解・愛着を深め、地域の目線で物事を考えられ、かつ広い視野で医療や地域活動に従事できる、次世代を担う医療人を一人でも多く育成していきたいと考えています。

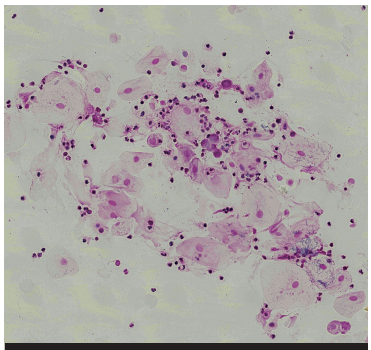
令和６年度開講のプログラム紹介（埼玉医科大学）

プログラム１：CCstep1 総合診療内科感染症実習

埼玉医科大学病院　臨床検査医学　教授　**前田　卓哉**

感染症をキーワードとし、「遠隔医療」と「適切な検体検査」がテーマです。シナリオベースの総合学習プログラムとして、令和４年度に開講しました。以来、学生からの評価をもとに検討を重ね、コースをブラッシュアップしてまいりました。現在では、プライマリ･ケアに必要な「医療面接」「身体診察」､さらには「カルテ記載」「臨床推論」､そして「検査室での検査」までを横断的に取り込み、一人の患者さんの診断の流れを演習室で再現するプログラムへと発展しました。

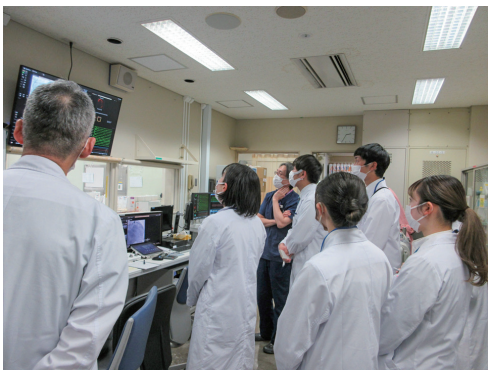
本プログラムでの私の担当は「検体観察と評価」です。感染症診断では、基礎医学で学ぶ微生物学の知識と、あらゆる臨床情報をもとに構築される臨床推論を「線」でつなぐ思考過程が重要だと考えます。具体的な病原体名を事前に想起し、適切な患者指導のもとに検体採取を行い、最適な検査方法を選択し、狙いどおりの病原体を同定するプロセスの理解を目指しています。本演習では、基礎医学の重要性と楽しさを再認識し、多くの学生が感染症学に少しでも興味がもてるような指導を心掛けております。



痰の顕微鏡像

プログラム５：県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）

埼玉医科大学副医学部長　事業推進プロジェクトサブリーダー　**林　健**



埼玉医科大学も群馬大学も、長期休暇期間の医学部学生地域医療機関見学は行っておりました。しかし今回、両大学が連携して本事業を行うことになり、それぞれが行っていた地域医療機関見学を合同で行うこととなりました。すでに下地ができていたシステムですので、比較的スムースに進んできているというのが実感です。

学生の休暇期間が両大学で多少異なること、移動の時間、などの問題はありますが、参加学生からの評判も良好で、良い学びの機会を提供できているのではないかと思います。今後はさらに参加学生を増やすことが期待されます。

地域枠医学生が勤務することが期待される医療機関の多くは両県の県境近くにあります。もしかしたら一緒に病院見学に参加した両大学の医学生は将来一緒に仕事することになるかも知れません。

医学部学生は部活等では他大学学生との交流は多くありますが、一緒に学ぶ機会というのは比較的少ないものです。地域医療の勉強とともに、学びの場での交流という得難い経験にもなればと思っております。

新たに在宅医療動画を公開しました

新たに「在宅医療」の動画をホームページに公開いたしました。下記 URL よりぜひご視聴いただき、当事業へのご理解・ご関心を深めていただけると幸いです。

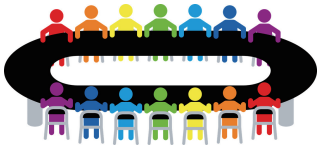
・動画ページ　URL　https://sgmirai.jp/report/idx06.html

※パソコンからの視聴を推奨いたします。

令和６年度 シンポジウムのお知らせ

令和７年

3月2日（日）



会場：エテルナ高崎（凛：3F）

※ウェビナー併用予定（ハイブリット開催）

※詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせいたします。

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成　Newsletter　第５号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
TEL：049-276-1109
発行日：2024 年 06 月
E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp
URL：https://sgmirai.jp

無断転載禁止